

福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録【要旨】

■日 時：平成30年8月21日（火）14：00～16：00

■場 所：アクロス福岡6階 会議室606

■議事3：福岡市の環境教育・学習関連施策について（平成29年度）

「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」で定めている9つの基本的方向に基づいて、平成29年度の福岡市の施策の取組状況等について報告し、当該協議会委員からの意見を聴取。

<委員からの主な意見>

- 市民局の「共同事業提案制度」では、行政と共働で事業を行うことで、NPO だけでやるよりも効率的にできることが実証された点が良かった。
- 「ニワピカ隊」で市の職員が清掃している姿を見て、市民も感じることもあるのではないかと。「ニワピカ隊」と市民団体が一緒に清掃活動ができれば良い。
- 団体に実施している自然観察会に参加する若者が減っているため、若者に自然環境に目を向けてもらう機会をどのように作ったらいいのかが課題である。
- 子どもたちは日頃、身の回りの植物などを漫然と見ていることが多いので、身近な自然に気付けるような、子どもたちの目、あるいは心を育てていく必要がある。「わたしたちの樹プロジェクト」は、木を植えるだけでなく、ネイチャーゲームなどをしながら自然や身の回りの環境に目を向け、身近な自然に気付ける子どもたちを育てるベースになっていく良い取り組みだと思ふ。ぜひ続けていただきたい。
- 学校向けには色々な環境学習事業があり、小学校では各学年で環境学習を行っているが、授業が終わって環境の意識が消えてしまったら、その時だけの取組みになってしまう。学習の後に日常化させることが学校での課題である。教師側が環境の意識を持ち、継続して子どもたちに関われるようになれば、環境教育が推進されると思ふ。
- 色々な事業を行っているが、環境教育・学習計画に基づき体系的に行っているというより、各事業がバラバラという印象を受ける。もう一度、各事業についてどの観点がより重要な観点なのかを明確にしていくような工夫をする必要がある。

■議事4：成果指標の達成状況について

「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」の成果指標について報告し、当該協議会委員からの意見を聴取。

<委員からの主な意見>

- 今、社会的にも評価が求められており、様々な評価ツールがあるが、SDGs もその一つだと思う。受益者が誰でそれに対してどういう評価を行うかが明確化されている指標を参考にされたらいかがかと思う。
- 18 ページの環境活動への参加状況の数値が極端に低い。これは、活動に参加した人がその活動を環境活動と認識しているかどうかによっても差異が出る。例えば、各町内活動が SDGs の何にあたるかを分かりやすい表示に統一して、その活動に対する評価項目も SDGs のターゲットの 169 項目の中から、環境に該当するものを抽出するということが求められるのではないか。
- このプログラムの一つひとつについて、所管課で自己評価をしてもらおうと良いのではないか。年度当初の目標に対し、実施状況を三段階評価くらいで評価してはどうか。
- 成果指標が、福岡市で行っている施策の進捗状況を表すものとなっているかを検討する必要がある。また、成果指標に使用するアンケートで、再生可能エネルギー普及活動という言葉を使用することに、どのくらいの意味があるのか。
- 環境教育・学習の成果として、実施した事業で何人集めたか、どれくらいの生徒・学校にアクセスしたかの実績値が入っていない。また、指標の中に一世帯当たりのエネルギー消費量があるが、学習・教育によりエネルギー消費量が下がったという理屈で、要因の一部ではあるかもしれないが、成果指標としてはどうか。